

○【阪口委員長】 大阪市外郭団体の事業経営の評価等に関する指針を定める規程に基づく指標・目標の設定の案件について、事務局から説明をお願いします。

○【小山法人担当課長代理】 御説明いたします。

外郭団体は、所管所属と協議いたしまして、評価の指標及び当該指標による目標を設定し、当該目標について中期目標及び年度計画に定めることとなっております。

本日は、社会福祉法人大阪社会医療センターにおきまして設定いたしました指標及び目標につきまして、所管所属を通じて、報告がございましたので、大阪市外郭団体の事業経営の評価等に関する指針を定める規程に基づき、御報告いたします。

内容につきましては、所管所属より御説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○【阪口委員長】 それでは、すみません。長いことお待たせして申し訳ありませんでした。社会福祉法人大阪社会医療センターの指標・目標設定について、所管所属から御説明をお願いします。

○【福祉局】 福祉局生活困窮者自立支援室長の武市でございます。

日頃本市の福祉行政に御理解と御協力いただき、ありがとうございます。

これから福祉局が所管しております社会福祉法人大阪社会医療センターにつきまして、前回御審議いただきました外郭団体が達成すべき事業経営に関する目標、中期目標を踏まえた本年度の目標設定、指標、いわゆる年度計画を御説明させていただきます。

それでは、自立支援課長代理の野口から御説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○【福祉局】 いつもお世話になってます。自立支援課課長代理、野口と申します。よろしくお願いします。

お手元の指標・目標設定（年度計画）の概要ということで、1番のほうから説明のほうをさせていただきます。まず、1番の事業経営により達成しようとする目的、具

体的な施策の内容ということです。

あいりん地域やその周辺には高度経済成長期から日雇労働者の集まり、その状況が現在も続いていると。また、日雇労働という不安定な就労状況、就労形態や様々な事情から野宿生活を余儀なくされている方が現在も多数おられる状況です。この方々は、不安定な就労形態から生じる疾病や負傷を抱えており、栄養面、衛生面で劣悪な状況にあるにもかかわらず医療保険制度の適用がないことや経済的理由により必要な医療サービスを受けることが困難な状況にあります。

そのため、そこに書かせていただいております無料や低額での医療提供が必要であり、また、あいりん地域に関しましては結核の罹患率が高いということもありますので、感染症をはじめとした医療の総合対策を引き続き実施していく必要があると考えております。本市といたしましては、民間の経営に委ねるだけではなく、安定的かつ継続的に無料低額診療と医療・福祉に関する相談支援などを併せて実施するため団体を通じて総合的かつ一体的に提供するものということで、そこに示させていただいております。それが1番です。

それから2番のところです。中期目標ということで、中期目標におきましては、団体にも示しました内容を掲載しております。団体が提供している事業サービスにおける支援機関への周知の頻度。それから人員養成計画とその実施状況と、及び進捗管理、それから周辺の医療機関と連携することにより開催する医療相談会の、これも開催の頻度というものを法人に示したということで書かせていただいております。

それを踏まえまして、団体のほうから年度計画というところのまず指標のIです。先ほどもちょっと申し上げました、あいりん地域で長く様々な相談支援事業とか貸し館というのを実施してる社団法人がおります。そこで毎月発行しております月刊誌、月刊広報誌のほうに掲載をすると、事業周知のほうなんですけども、それから毎月いわゆる様々な分野が集うという一応形になってるのはケース検討会議というのはございます。それで困難事例というのを対応を検討する議論に参加すると。社会医療セン

ターとして貢献できるという形のほうを、アピールにつながるということです。

それからこれも毎月開催しております、ここが社会医療センターでの主催という形になるんですけども、西成区、民間であったりとか、いわゆる関係機関、関係の行政機関であったり、警察、それから労働福祉センターなどの行政機関が参加する情報交換の場にてサービス提供する事業の周知とか、何かあったときに社会医療センターということでの利用促進を図るということです。先ほど申し上げました、毎月、毎月ということで申し上げておりまして、目標値ということで、おおよそ38回ということを示しております。

それから次に、2つ目のところになります。地域の関係団体、支援機関の開催する場等を利用して、地域の方々を集めて開催する場を利用してなんですけども、実際にアウトリーチといいますか、医師、看護師が直接アウトリーチをして健康とかいろんな説明というのを毎月実施しております。

回数に関しましては15回というのを示されておりました。毎月なんで、基本的にはそういう会議の場というのが実際2つ枠組みがございますけども、コロナの関係でどうしても前半開催のほうをできませんでしたんで、回数というのを15回ということを示しております。

続きまして、裏面のほうの財務の運営のほうに行きます。

まず病院の現状ということなんですけども、通院よりも医療報酬が高額であると、入院のほうが高い医療報酬の関係ではあるんですけども、通院よりも入院のほうが少ないという現状がございます。その現状において団体としては、事業の運営の安定とか継続というのを図ると。もちろん自立した経営に向けて財政基盤の確保を図るということも含めまして、医業収益の中の入院の収益というのを増加するということでお示ししてまいりました。

そこに目標値ということで書いている数値に関しましては、今年度までの中期経営計画がありますので、その最終目標値というのを掲載させていただいております。

続きまして、指標のⅡのところでは、当初もちょっと申し上げたんですけども、あいりん地域にて社会的、経済的に必要な医療が受けられないということが継続的に続いてる状態にあることであつたりとか、どうしても病気に対する知識がないとか、通院を嫌がるということで、気づきましたら外来で基本的に治療ができる状態ではなくなっているという現状にある方がいらっしゃいます。悪化されてる方がたくさんおりますので、ここも入院につなげるという形になるんですけども、入院が必要な方に病状や治療のまず必要性というのを、まず通院の折とかに入院が必要な病状とか治療の必要性という説明、そこからです、説明して、医療に対する不安の解消とか、退院後の実際生活ですね、そちらのほうの相談というのを、アフターケアじゃないんですけど、そっちのほうでちゃんと病状管理というか、その辺まで行って治療につなげることで、ここに空床の減数というのを図るということです。

病床の稼働率というのを上げております。その数値というのも先ほど申しました中期の経営計画の最終の目標値と同じ数値のほうを掲載させていただいてます。

それを受けてなんですけども、右側の4番です。所管所属の見解ということです。

まず事業経営のほうに関しましては、アピールと申し上げますか、まず社会医療センターというものをそれぞれサービスを提供する際に頭にすぐ出ていただかんと駄目ということで、周知ということが一番重きに置かれるわけなんですけども、その周知ということで、例えば広報紙、間接的であつたりとか、医師が、看護師が直接集まってるところに出向くであつたりとか、アウトリーチですね、そういう様々な方法で、アピール方法で行ってることになりますので、団体が示しました指標・目標というのは適切であると、妥当であるということで考えております。

財務のほうの関係に関しまして、これももちろん当然なんですけど、大阪市の施策を安定的かつ継続的に実施するためには、もちろん安定した経営というのが必須でありますので、それを担保する十分な収益の確保というのが図られてるよううちのほう考えとります。

こちらでも団体が設定した2つの指標・目標というのは妥当と判断いたします。

私からは以上です。ありがとうございました。

○【阪口委員長】      ありがとうございます。

それでは、委員各位から御質問、御意見お願いできますでしょうか。

○【水上委員】      水上です。よろしくお願いいたします。

今の年度計画の中の財務運営のところについて少し伺いたいんですが、入院による収益を増加させるということで、一般的と言っていいかどうか分かんないけど、地域医療構想や通常病院なんかだと入院日数を少なくすることで経営改善に努めるといようなことも聞かれるかと思うんですが、そういう入院日数を増やすようなことでむしろ経営が改善していくといような御認識でよろしいんでしょうか。

○【福祉局】      短いという傾向ですので、長くなればもちろん減点をやっていくんですけども、回転といいますか、2つ合わせてという、効率的な運用のところの一つの手法であったりとかというのもあるんですけども、おっしゃってるようにその考え方で運営していくようなことを考えております。

○水上委員      そうすると財務運営のところの指標Ⅰと指標Ⅱの関係でいえば、指標Ⅱで空床率を下げていくような取組が結局、指標Ⅰにつながっていくといような認識でよろしいでしょうか。

○【福祉局】      一つの指標ということで、Ⅱのほうをお示しさせていただいておりますので、点数ということで床数を上げたりという話でいったときに、ほかにも何個か取組あるんですけども、大まかなものでこれを上げさせていただいております。

○【水上委員】      分かりました。ありがとうございます。

○【清水委員】      年度計画のちょっと確認なんですけど、評価対象期間、指標Ⅰ、Ⅱの12月末までってなってるのは、これは新病院の切替えのタイミングが12月末といことでそういう形になってるとい理解でよろしいでしょうか。

○【福祉局】      いや、この事業経営のところになるんですけども、評価対象期間と

いうのは、次の年度が4月から始まりますので、どうしても先に事業評価のほうをして、あかんところはあかで直してという一応形になりますので、ちょっと先に落としどころといいますか、12月末までで。

○【清水委員】 だからたまたま新病院の時期と重なるという理解でよろしいでしょうか。

○【福祉局】 そうですね。新病院が12月上旬になります。

○【市口委員】 先ほどの水上委員の質問とちょっと、若干補足するような形なんですけれども、指標Ⅰの医業収益の増加というところで目標値設定されてますけれども、当然これは医業収益を増加させることによって当期活動増減差額なりが少なく、今、私の手元にある資料では赤字なんですけれども、黒字転換する、そういう意味合いですよ、これ。

○【福祉局】 そうですね。

○【市口委員】 特に単純にいや黒字転換するのであれば、補助金なりを増やしたら黒字は転換になるんだけれども、その辺に影響せずにあくまでも自力で医業収益を増加を図ってもらって黒字転換にしてもらおうと、そういう意味合いということで考えていいわけですね。

○【福祉局】 そうですね。いずれはだから無料低額診療の補助金というのももちろん減らしていただいたりとか、そういうことをせなあかんいうのでちょっと気合を入れたといいますか。

○【市口委員】 分かりました。

それと年度計画のところの指標のⅠのところでは会議の開催とか参加の回数があるんですけれども、特に指標のⅠの地域広報誌での事業周知とか事例検討を通じた、よりよい支援の実施と連携の強化のための関係機関との会議開催及び参加と。地域広報誌の事業周知というところの回数というのは別に問題ないと思うんですけれども、関係機関との会議開催・参加というところ、このところには今年中というところで対象期間

なってますけれども、新型コロナの影響でその辺はそういう状況下であってもこんだけ確保できる、したいと、そういうことですよ。

○【福祉局】　そうですね。今、おっしゃっておられるⅠの指標のところで、実際社会医療センターが主催してやってる分もそうですし、ケース検討会議ということで区が例えば主催でやってる分であったりとか、そこにおいても基本的には必須といえますか、事業のところに直接関わってくるとかって話になりますから、要はコロナの関係で急で中止とかいうのはないんですよ。

Ⅱのほうに関しましては、先ほど申し上げましたけども、どうしても地域の方々が集まって、そこに乗り込んでいって説明をさせていただく、そのところに関しては中止というのはありますので、毎月1回、2つやってまして、ほんまは24とか、20超えてくるんですけども、そこ中止がありますので、15ということで設定させていただいてます。

○【市口委員】　分かりました。以上です。

○【阪口委員長】　ありますか。ないですか。

阪口ですけど、コロナの影響と、それから逆に、新病院が12月できる影響と、何かそこら辺は医業収益とか、病床の効率的運用との関係では、プラス・マイナスそれぞれどういうぐらいのイメージなんですか。病院はまだ稼働してないけど、病院ができるということは言わば地元で、広く周知というのかな、そういうアピール材料であると思うんで、何かその辺どんな感じなのかなというふうに。

○【福祉局】　コロナの影響ですけども、この病院に限らずかなり広範囲にわたって様々な病院やクリニックで影響を受けていると聞いております。実際この4月あたりは大阪市内の生活保護の受給者の医療扶助の金額が、やはり通院日数等もがくんと下がっております。皆さんお薬を長期分もらうとかして通院日数を下げられた結果だと思いますので、それは大きくどの病院も響いてくるとは思うんですけども、ただ、ここの社会医療センターの一つの特徴として、きちんと通院しておられる方も多

数おられるんですが、本来であれば定期的に通院していただかないといけないような病気を抱えておられる方ですが、とにもかくにもできるだけ世話になりたくないという思いが頭に大き過ぎて、よほどしんどくなったら病院へ行くという方が多分相当数占めておられますので、コロナでなくても受診控えが激しい人たちがどうしようもないときに来ておられるということがありますので、コロナの最中に朝、接触型の体温計じゃなくて、あれは誤差が多いんで必ずわきに挟む体温計で受診の並んでおられる方全員の体温を測って受診をさせるようなことをされてましたけども、かなり長蛇の列になってましたけど、そこはあまり変わらなかったということもございますので、ちょっとこの先が読めないところは確かにございますけれども、大きな影響はほかの病院に比べると少ないかもしれないとは思っております。

新病院につきましては、地域の方も大変開院を楽しみにしていただいております、地域の医師会とかの先生方のところも宣伝のために回っておりますけれども、今はちょっと紹介しにくいんですけども、新病院になったら検査とかの紹介とかもぜひさせていただきたいというようなお声もいただいておりますので、新しい病院をできるだけ新しいうちにしっかり多くのお客さんに来てもらえるかなということを考えております。

○【阪口委員長】 分かりました。ありがとうございました。

よろしいですか。

どうもありがとうございました。質疑応答については、以上にいたします。

意見は、特にはなしですかね。

じゃ、意見なしで。ありがとうございました。

本日の予定している議題は以上ですので、これをもちまして本日の外郭団体評価委員会を終了いたします。ありがとうございました。

閉会 午前11時50分